

宇土市における大学・地域連携による地域公共交通利用促進に向けた取り組み

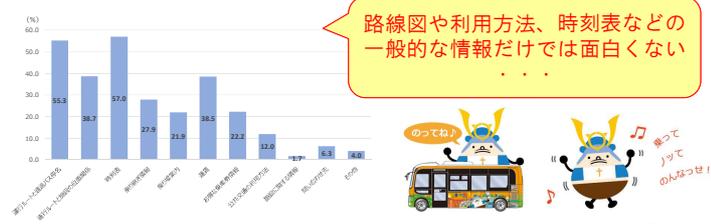
復建調査設計(株)九州支社:竹隈史明・土佐侑子・淺沼淑子、熊本県立大学総合管理学部:高濱信介、宇土市企画部企画課:益田藍子

はじめに

鉄道、路線バス、コミュニティバス、ミニバス、デマンドバスで地域公共交通体系を構築



本プロジェクトの概要



路線図や利用方法、時刻表などの一般的な情報だけでは面白くない



- 地域公共交通利用者数の減少
- それに伴う運行収支状況の悪化
- 交通事業者の経営環境の悪化etc



大学・地域による地域公共交通利用促進（学生GP制度）との連携
宇土市コミュニティバスすごろくゲーム「UTOBUS 行長しゃんGO！」の掲載

地域公共交通計画に関する理想及び将来的な在り方を示した、「宇土市地域公共交通計画」を策定（令和4年2月）

併せて、利用促進に向けた「宇土市公共交通マップ」を作成



※学生GP制度（地域連携型卒業研究）とは、熊本県立大学が地域企業・地域社会から研究テーマを募集し、学生が卒業研究として取り組むもの
※令和3年は、熊本県立大学高濱研究室において、宇土市の公共交通の利用促進をテーマに、①市民へのアンケート調査等による課題把握、さらには②宇土中学校とのワークショップによるバスマップづくりを実施
※①に関しては、コミバス及びミニバス利用者へのヒアリング調査、バスを利用しない市民に対するアンケート調査等を実施

バスマップづくりワークショップの流れ

【目的・趣旨】

- ・バスに無関心な人に関心を持ってもらう
- ・バスに目を向けさせるために親しみをもってもらう
- そのためには、**若者視点・地元視点**で検討！！
- **宇土中学校2年生 80名を対象**

Step 1：事前オリエンテーション

- 宇土市の公共交通の現状及びワークショップの進め方の説明
- コミバス沿線の資源調査の依頼

Step 2：ワークショップ（中学生との協働）

- 全体構想の検討（ゲームの勝ち負けのルールなど）
- コミバス沿線の資源を出し合い、活用方法の検討
- イベント内容を検討し、ゲーム盤作成

Step 3：ゲームづくり（学生グループワーク）

- ゲーム試作品の作成
- ゲームタイトル、勝ち負けのルール、発生イベントetc

写真：ワークショップの実施状況



写真：学生グループワークの実施状況



回数券・クーポン券の導入やゲーム案を含むバスマップの活用、SNSを活用した利用促進策などについて提案
宇土市コミュニティバスすごろくゲーム「UTOBUS 行長しゃんGO！」

UTOBUS 行長しゃんGO！

私たち、熊本県立大学総合管理学部生が作成しました！

このすごろくゲームは、宇土市の皆さんに市内を走る公共交通に親しみを持っていただきたいという思いから、宇土中学校の生徒さんと一緒にワークショップを実施してきました。

（主催者）熊本県立大学総合管理学部生
（協賛）宇土市立中学校

ゲームに必要なもの

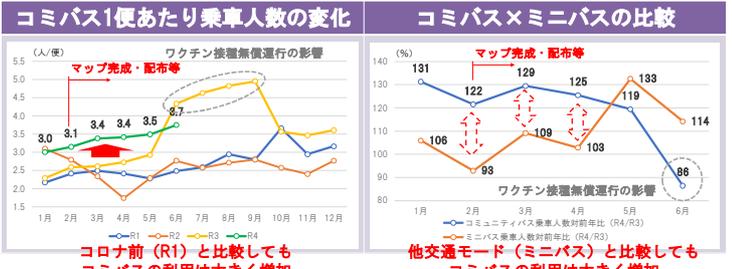
- UTOBUSカード
右記路線のQRコードより配属先からダウンロードしてください。
- 参加人数分の「コマ」
- ワイヤレス

ゲームの遊び方

- 宇土市メール着から左回りでスタート
- サクコマを投げて、出た目の数だけ進みます
- 白いマスに止まったら、UTOBUSカードを山から引き出します
- バスが止まったら、下記イベント表に書いてある内容の順に読んでいきます
- 勝ち負けは、ゲーム終了後、ゲーム中に止まったカードに書いてあるポイントの合計が1番多い人が勝ち！

詳しい遊び方はコチラ→ UTOBUSマップを参照してください

効果検証



〔ワークショップに参加した中学生の声〕
・まだ乗ったことがないので実際にバスに乗ってみたい！

今後に向けて

- ◆市民の地域公共交通に対する関心の低さを改善し、地域公共交通を利用するきっかけづくりがまずは重要
- 地域に精通した若者等のアイデアの活用
- 継続的かつ話題性のある情報発信